

平成 29 年度 新潟県立十日町高等学校 シラバス

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
地歴	地理B	普通科・2年生・文系	4
教科書 副教材等	[主たる教材] 『新編詳解地理B』（二宮書店）『高等地図帳』（二宮書店） [副教材] 『最新地理図表ジオGEO』（第一学習社）『新地理要点ノート』（啓隆社）		

1 科目の目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 科目の内容

- (1) 「様々な地図と地理的技能」の習得＝地図帳をフル活用し、たくさんの情報を必要に応じて使いこなせるような技術の習得を目指す。
- (2) 「現代世界の系統地理的考察」＝地球上で起こっているさまざまな自然現象に注目し、その発生の仕組みとそれが人間社会にどのような影響を与えているか、またそれらを人間がどのように利用しているかについて考える力の習得を目指す。
- (3) 「現代世界の地誌的考察」＝地域の歴史的背景を考慮し、空間軸と時間軸の両面から当該地域の地域的特色を明らかにすることを旨とする。

3 授業計画 (4単位\*35 140時間)

月	内 容	配当 時間	指導上の留意点
4月 5月	<b>第Ⅰ編 地図と地理的技能</b> 第1章 地理情報と地図 第2章 地図と地域調査 <b>第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察</b> 第1章 自然環境 第1節 地形（地球表面の起伏である地形、世界の地形、河川がつくる地形、海岸の地形、その他の特徴的な地形） 第2節 気候（地球規模でみた気温と降水量、地球規模でみた大気の流れ、海洋の影響と気候の地域性、水の循環と利用） 第3節 自然と生活（世界の気候区分、世界規模からみた植生、世界規模からみた土壌、熱帯の気候と生活、乾燥帯の気候と生活、温帯の気候と生活、冷帯・寒帯の気候と生活、日本の気候） ○1学期中間考査	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる用語の学習にならないよう、各地形のメカニズムについて理解させる。</li> <li>・気候を区分して考察することで、地域の比較がしやすいことを理解させる。</li> </ul>
5月 7月	第2章 資源と産業 第1節 農林水産業（農業地域の形成条件、人口希薄な地域でみられる農業、人口が多く集まるアジアの農業、商業的性格の強い農業、世界農業の動向、世界の水産業、食糧問題、世界の林業、日本の農林水産業） 第2節 資源・エネルギー（生活と産業を支える資源・エネルギー、世界のエネルギー資源、世界の原料資源、資源・エネルギーをめぐる課題） 第3節 工業（世界の工業の成り立ち、工業の立地、工業地域の形成と変容、グローバル化する工業生産と多国籍企業、グローバル化のなかの日本工業） ○1学期期末考査	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と自然環境（地形・気候）が密接に関わっていることを気づかせる工夫をする。</li> <li>・現在の課題と絡めて学習する。</li> <li>・工業は近代国家形成において重要な役割を担った産業であることを理解させる。</li> <li>・歴史的発達過程をしっかりと理解させる。</li> </ul>

7月	<b>第3章 人口と村落・都市</b> 第1節 人口（世界の人口分布と人口増加、人口増加地域の人口問題、人口減少地域の人口問題、日本の人口問題） 第2節 村落・都市（さまざまな規模の集落、村落の立地と形態、都市の発達と変容、都市・居住問題と解決への努力、日本の村落・都市の課題）		・人口の増減は我々の生活に大きな変化・問題を引き起こすことを気づかせる。
10月	<b>第4章 生活文化と民族・宗教</b> 第1節 衣食住（世界の衣服、世界の食生活、世界の住居、） 第2節 言語と宗教（世界の言語、世界の宗教） 第3節 民族と国家（民族と国家、民族・領土問題の多様性、日本の領域と領土問題、国家群で結びつく世界、国際連合の役割） ○2学期中間考査	24	・今日のライフスタイルはその地域の歴史と伝統に大きく影響されていることを理解させる。
10月	<b>第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察</b> <b>第1章 現代世界の地域区分</b> <b>第2章 現代世界の諸地域</b>		・今まで学習した系統的地理を踏まえて地誌学習する。
12月	第1節 中国、第2節 韓国、第3節 東南アジア、 第4節 インド、第5節 西アジア・中央アジア ○2学期期末考査	31	・地元の教材を取り上げ地誌学習の基礎を作る。 ・地誌学習は「項目ごと」「主題を通して」「地域差から」など様々な方法があることに気づかせる。
12月	第6節 アフリカ、第7節 EU、第8節 ドイツとポーランド 第9節 ロシア、第10節 アメリカ	15	・地図をフル活用する。
1月	第11節 ブラジル 第12節 オーストラリアとカナダ		・地図化する利点を考察させる。 ・地球規模の課題について現状理解に留まらず、将来に解決すべく主体的に関われる生徒の育成を目指す。（レポート作成）
3月	<b>第3章 現代世界と日本</b> 第1節 世界の中の日本 第2節 持続可能な社会に向けて ○学年末考査	16	

計 140時間（55分授業）

#### 4 学習評価

評価の観点・規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
	人間生活は多くの地理的事象（自然環境・社会環境）の影響を受けていることに関心を持ち、積極的に取り組み、課題提出も確実である。	学習内容をもとに、世界の問題が身近な問題に深く影響していることが理解でき、それらの問題について自分の意見を文章で表現できる。	自分で調べたことを、地理的な技能（図・グラフ・視聴覚教材など）を使い、まとめることができる。	高校生としての最低限の基礎知識を身に付けているか。我々人間は様々な地理的事象の中に生きていることを理解している。
評価方法	・授業への取り組み ・ペア学習やグループ学習 ・授業プリントや課題等 ・定期考査	・授業への取り組み ・グループ学習や発表活動 ・授業プリントや課題等 ・要点ノート作成	・発表活動 ・授業プリントや課題等 ・要点ノート作成	定期考査 小テスト・課題プリント

#### 5 担当教員

地歴科教諭

#### 6 担当者からのメッセージ

現代社会を生きる私たちにとって、文化・政治・経済どれをとってもある特定の地域や1カ国だけで現在の課題を解決できなくなっている。地球環境問題、民族・宗教・領土問題、人口問題などグローバル規模で解決しなければならない問題は山積みである。このような時代に飛び込む君たちは、近い将来世界の人々と触れ合う機会が多くなるだろう。その際、相手の文化・伝統を理解しておくことが必要となる。また、情報化社会の中で無数に飛び込んでくる情報をいかに正しく把握し判断をしていくかも重要となるであろう。地理の学習は必ずや君たちの将来を手助けし、人生を豊かなものとしてくれるはずである。

